

⑥社会貢献活動

硬式野球部では、地域や世界の笑顔のために様々な活動に参加・企画運営をしています。

- ①毎週木曜日には、地域の清掃活動
- ②JICA 海外協力隊「世界の笑顔のために」プログラムを通しての道具の寄贈
- ③刈谷市国際交流協会の協力のもと、国際交流イベントの開催

刈高野球部が国際交流

- 2023.03.25 <https://www.e-hn.net/?p=18286>

「言葉の壁超えられた」

愛知県立刈谷高校の野球部が 5 日、スポーツイベント「日本の野球文化を学び、国際交流をしよう」を同校のグラウンドで開き、市国際交流プラザの日本語教室で学ぶ外国人住民と親睦を深めました。

ブラジルやベトナム、中国、タイなど英語以外を母国語とする 7 カ国の約 20 人が参加。野球になじみの薄い国の出身者も多く、部員たちはグローブの使い方やバットの構え方など、ジェスチャーを交えて丁寧に説明しました。

部員たちは準備体操に、各国の言葉で「1、2、3」と声をかけ合ったり、鬼ごっこをしたりして場を和ませる工夫も。投打の練習をした後、2 チームに分かれたソフトボール対抗戦で盛り上がりました。

部員の青山さん(2 年)は「自分たちの企画にみんなが笑顔になってくれた。言葉の壁を超えてつながることができた」と手応えを感じた様子。グローブに初めて触ったというベトナム出身のファンさんは「野球を見るのが楽しくなりそう。刈谷高校の野球部を応援します」と話していました。



「ボール打って走る、なぜ？」ベトナムの子の疑問 応えた高校球児

良永うめか 2023年6月29日 11時00分

<https://www.asahi.com/articles/ASR6R6FDQR6LOIPE008.html>

拳より大きなゴムボールを3本指でぎゅっと握る。右肩を引いて、左脚を少し上げて――。[ベトナム](#)出身で、[愛知県刈谷市](#)に住む小学3年、グエン・タイ・バオくんは、ボール投げが大好きだ。投球フォームは、県立刈谷高校の野球部員から教えてもらった。

「日本の野球文化を学び、国際交流をしよう」

今年1月、刈谷市国際交流協会の日本語教室で、刈谷の野球部からチラシが配られた。[外国籍](#)の住民向けに、スポーツイベントを開くというものだった。

バオくんの父親のリンさん(33)は5年ほど前に来日した。金属加工の工場で働きながら日本語教室に通っている。チラシを目にして長男のバオくんの顔が浮かんだ。「色んな体験をさせたい」。2人で参加することにした。

母国のベトナム 野球は「はやっていない」でも興味

ただ、リンさんらの母国ベトナムでは、野球は「流行していない」。人気はサッカーだ。「野球はやり方がわからない。何のためにボールを打って走っているかわからなかった」

イベント当日、刈谷高校のグラウンドには、[ブラジル](#)、タイ、中国、[インドネシア](#)など7カ国出身の約20人が集まった。リンさんらのように、野球になじみがない人がほとんどだった。

部員が色んな国のあいさつで出迎えた。それから始まったのは鬼ごっこ。リンさんは「子ども向けの遊びから入って、すぐに夢中になりました」。

ボールの投げ方やバットの振り方も教えてもらった。バオくとペアを組んだのは、神谷諭(さとし)選手(3年)。バオくんは初め怖がっている様子だったが、ボール投げを始めると、すぐにのめり込んだ。「バットとかキャッチするのおもしろい」。部員と参加者で混合チームを作り、試合もした。眺めていたリンさんも、野球の魅力に気がついた。「チームの中で一番強い人がいても、勝てないところがおもしろい」

イベントのきっかけは、森藤(もりとう)秀幸監督(42)が日本語教室のボランティア、鈴木崇さん(49)に声をかけたことだ。

愛知県で働く外国人に野球を楽しんでほしい

自動車産業が集積する愛知県内では、多くの外国人がさまざまな工場働いている。トヨタ系の会社が多い刈谷市では、住民の3・5%を外国人が占める。

森藤監督や鈴木さんは「日本の伝統のある野球を見てほしい」「部員に言葉の通じない人と接する経験をしてほしい」などと思いを交わし、話は進んだ。

イベントの内容は、野球部員自らで話し合った。部員たちは日本語教室を回り、案内した。見守った森藤監督は「初めは部員の話すスピードがどら速くて、説明が伝わってなかった」と振り返る。

試行錯誤した青山琉生(るい)主将(3年)は「身ぶり手ぶりや、大きな声でゆっくり、簡単な日本語を使うことを意識しました」。楽しんでもらおうと、イベント前には参加

者の母国語を簡単に勉強した。

部員たちの思いは、参加者たちに伝わったようだ。

バオくんはイベント後、近所の少年野球チームの体験に行くほどに。学校のボール投げテストでは、神谷選手から伝授された投げ方でクラス 2 位になった。「頭が良くて運動神経が良くて、かっこいい」と野球部員への憧れを口にする。

部員らも、得るものが多かった。バオくんにつきっきりだった神谷選手は「本格的に野球をやっていると、結果ばかり求めてしまう。野球の本質にある、楽しむ大切さを感じることができた」。青山主将も「野球を知らない人に教えるのは難しかったが、野球人口が減っている中で興味を持ってくれてうれしい」。

イベントはこれからも継続的に開く予定だ。

愛知大会の抽選会翌日の 6 月 18 日、日本語教室から帰ろうとするリンさんに鈴木さんが声をかけた。「刈谷の 1 回戦を見に行かないか」

バオくんは「(野球部員に)また会いたい」。リンさんも「ぜひ見に行きたい。もちろん、刈谷高校野球部を応援します」。(良永うめか)

[「ボール打って走る、なぜ？」ベトナムの子の疑問 応えた高校球児 - 高校野球：朝日新聞デジタル \(asahi.com\)より](#)

